花粉症はどのような病気か調べてみた

作成：桜下街（2017.2）

花粉症とは

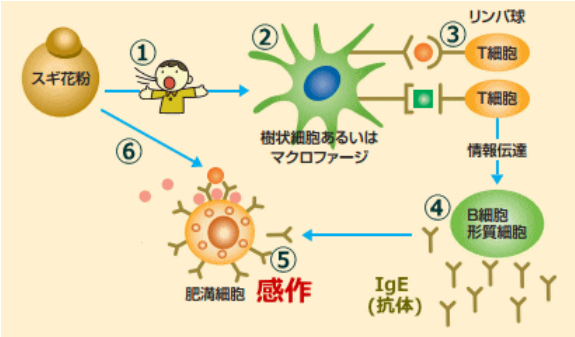
花粉症とは、スギなどの植物の花粉が原因となって生じるアレルギー疾患の総称であり、日本人の約 30%が花粉症と推定されるとの報告があります（2008 年の調査）。花粉症の症状としては、主にくしゃみや鼻水などのアレルギー性鼻炎の症状、目のかゆみなどのアレルギー性結膜炎の症状があります。

花粉症が起こる仕組みについてみてみよう

アレルギーとは、生体の防御機構である免疫反応が特定の異物（抗原）に対して過剰に起きた状態とその症状を指します。花粉症における抗原は花粉です。花粉症が起こる仕組みについて、的確な花粉症の治療のために（第 2 版）の図（改変）を借りながらみていきます。

✓ 感作：花粉侵入に対する備え

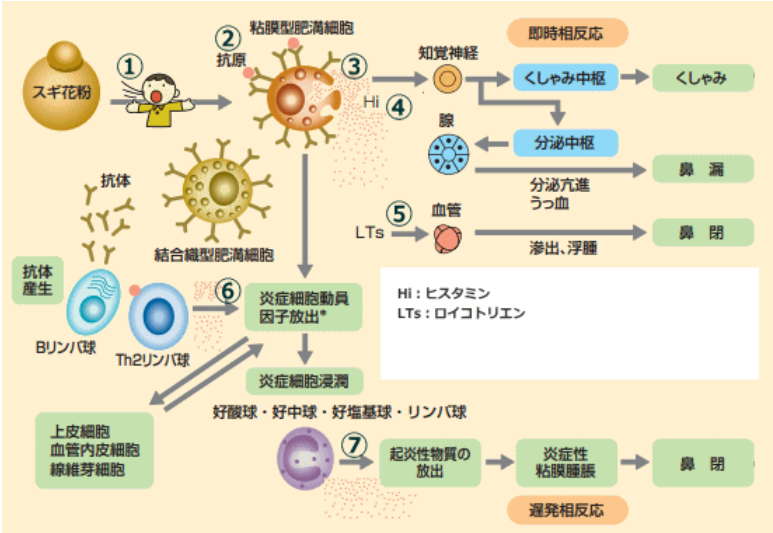
花粉症の患者では、症状が出る以前に花粉が体内に入り、免疫細胞が特異的に反応する抗体を作っています。この花粉が再び体内に入るとアレルギー反応が起こり、花粉症特有の症状がでます。このように、特定の抗原に対してアレルギー反応が起こる状態を感作といいます。



① 花粉が体内に侵入する
② マクロファージが異物と認識する
③ 異物情報が T 細胞（Th2 細胞）へ伝えられる
④ 異物情報が B 細胞に伝えられ、侵入した花粉に特異的な IgE（抗体）を作る
⑤ IgE が肥満細胞に結合し、次の花粉侵入に備える
⑥ 再び花粉が侵入

✓ アレルギー反応：即時性反応と遅発性反応

花粉によるアレルギー反応には、花粉侵入後数分～数十分で現れる即時相反応、数時間後（6～10 時間後）に現れる遅発性反応があります。症状としては、即時相反応では、くしゃみ、鼻水、鼻づまり、即時相反応では鼻づまりが現れます。



① 再び花粉が侵入
② 肥満細胞上の IgE に花粉が結合する（抗原抗体反応）
③ 肥満細胞からヒスタミンなどのアレルギー誘発物質が放出される
④ ヒスタミンがくしゃみ、鼻水を引き起こす
⑤ ロイコトリエンが鼻づまりを引き起こす
⑥ Th2 細胞がアレルギー誘発物質を放出し、主に好酸球を刺激する
⑦ 活性化された好酸球がロイコトリエンを放出し、鼻づまりを引き起こす

花粉症に関するあれこれ

✓ 花粉症（季節性アレルギー鼻炎）と通年性アレルギー性鼻炎

季節性アレルギー性鼻炎では主な抗原が花粉であり、毎年同じ花粉の時期に症状が現れます。一方、通年性アレルギー性鼻炎の抗原にはハウスダスト、ダニやカビやなどであり、季節に関係なく年間を通じて症状が現れます。

✓ 花粉症と風邪の見分け方（例）

スギ花粉の飛散が始まる 2 月はまだ風邪のシーズンでもあります。下記は、花粉症と風邪の見分け方のほんの一例です。

- 鼻水：花粉症の鼻水は透明で水様性、風邪の鼻水は粘性がある
- 他症状：花粉症では目のかゆみを伴うことが多い。風邪では発熱や喉の痛みなどを伴う。
- モーニングアタック：花粉症では朝方に症状が強く出ることがある。